20046

急性動脈閉塞症にPTAが無効でFogarty catheter血栓除去が著効した1例

[1]康仁会 西の京病院、[2]康仁会 西の京病院

野口　幸[1]、上西　大輔[1]、河内　雄大[1]、安田　徳基[2]、今井　崇裕[2]、福井　寛人[2]、中井　章至[2]、清水　眞澄[2]、齊藤　精久[2]、高比　やすおみ[2]

急性動脈閉塞症の合併症である MNMS を発症すると重篤な状態となるため早期血管再建術が必要になる。今回、発症当日にFogarty catheterによる血栓除去術で著効した症例を経験したので報告する。【症例】70歳代女性。主訴は左下肢痛。10年前に僧帽弁置換術でワーファリンを服用していた。最近、腹部膨満、便潜血を認め、大腸ファイバー目的で中止していた。来院時、左下肢の動脈拍動消失、疼痛、冷汗、蒼白でBalas分類では1度であった。血液検査はCK 35U/l Cr 0.62mg/dl INR 1.23 Fib 264mg/dl FDP 6.3μg/ml D- dimer 2.7μg/ml であった。ABIはrt/lt 1.08/0.57、SPPはleft P/D 55/49mmHg、下肢エコーで多量の血栓閉塞を認め緊急PTAとなった。lt-FA順行性approchでwireをcrossし、IVUSで血栓像認め、吸引および2.0×20mm、3.5×40mmのBalloonで拡張するが血流改善が認めずFogarty catheterによる血栓除去術に移行した。4Fr Fogarty catheterを挿入し血栓摘除を行うと多量の器質化した血栓が摘出され良好な血流を確認し終了とした。術後ABI1.23と改善、9病日の下肢造影では良好な血流を認めた。【考察と結語】本症例はPTAで効果が得られず速やかにFogarty catheterによる血栓除去術が著効し救肢できたと考えられたので文献的考察を加え報告する。